

## 原種苗木のより効率的な生産を目指して(苗畑でのさし木増殖試験の実施)

令和2年7月29日

林木育種センターでは、成長や材質、病虫害に対する抵抗性、スギやヒノキの花粉の少なさに優れた品種を開発しています。開発された品種は「さし木」や「つぎ木」により増やして、採種・採穂園造成用の原種苗木として都道府県等に配布しています。

関西育種場では、府県等への配布用原種苗木を主につぎ木により増殖しています。

一般的に、つぎ木はさし木に比べて手間がかかり苗木の大量生産には向きませんが、スギやヒノキの場合、増殖の確実性の点では、さし木に勝ります。

しかし、一度に数多くのさし穂を確保し、苗畑でさし木を行うことができれば、つぎ木よりも技術的に簡便で苗畑での生育期間の短縮など、より効率的な配布用苗木の増殖が期待できます。苗畑でのスギのさし木増殖は、九州地方においては古くから行われてきており、確かな技術があるのですが、関西育種場がある中国地方においては、あまり行われてきませんでした。

そこで、関西育種場では、中国地方の環境でも苗畑でのスギのさし木増殖がうまくいくかどうかを確かめるために、「九州方式」を参考に、苗畑でのさし木増殖試験に取り組んでいます。

具体的な方法を紹介すると以下のとおりです。

①苗畑に散水し十分に灌水のうえ、マルチシートにより床面の乾燥防止を図る。(写真1)

②40cm以上の穂木をさし穂に加工し発根促進処理を24時間行う。

③ガイド板を使ってマルチシートに目印を付け、さし木準備に入る。

④案内棒により深さ15cmを削孔し「さし穴」とする。(写真2)

⑤「さし穴」に穂木をさし付け周囲を軽く押さえて転圧する。

※③から⑤の作業を系統毎に実施する。

今年度は、4月6日に少花粉スギ19系統、各24本ずつ(合計456本)のさし付けを実行し、現在は段階的に遮光管理を行いつつ、経過観察を実施中です。

今後も試験を継続し、結果がよければ、来年度以降徐々に、つぎ木苗からさし木苗への移行を行い、より効率的な配布用苗木の生産を目指していきたいと考えています。



①マルチを張ったさし木床



②案内棒で「挿し穴」を付ける



③作業終了後

(関西育種場)